

今日のキーワード「外国人旅行者」、依然好調続く（日本）

日本を訪れる「外国人旅行者」の数を知るには、日本政府観光局（JNTO）が発表する“訪日外客数”が参考になります。直近2カ月分は、「外国人旅行者」の多い国・地域の推計値が公表され、世界20カ国・地域からの、暫定値では世界38カ国・地域からの「外国人旅行者」の数が把握できます。それ以前の分は法務省統計に基づく暫定値として公表されます。確報値は翌年に公表されます。

ポイント1

4月の“訪日外客数”は208万人で前年比18.0%増 熊本地震などの影響で伸び率は鈍化

■日本政府観光局（JNTO）が18日に発表した4月の“訪日外客数”は、前年同月比18.0%増の208万人となりました。3月に続き2カ月連続で過去最高を記録しました。桜シーズンによる訪日需要の高まりがある一方で、熊本地震の影響や日本のゴールデンウィークで宿泊施設が確保できない、などのマイナス影響があったため伸び率は1月の52%増、2月の36%増、3月の32%増からは鈍化しました。

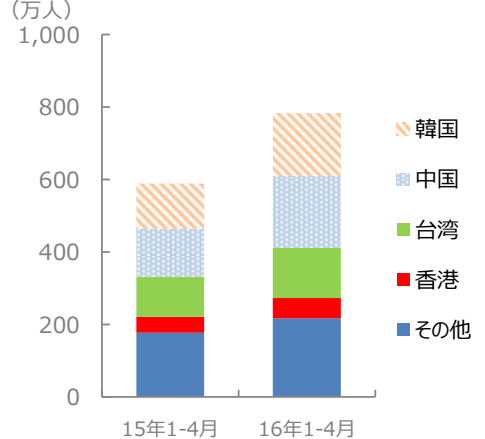
ポイント2

引き続きアジアがけん引 1-4月の累計では32.9%増

■4月の国別入国者数は、対象となる20カ国すべてが前年比で増加となりました。台湾、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、フランスからの入国者は単月として過去最高の水準となりました。1-4月の累計では783万人と前年同期比で32.9%の増加となっています。トップは中国の199万人で49.5%増です。

■4月14日に発生した熊本地震を受け、特に地理的に近い韓国からの旅行者にキャンセルが発生し、伸び悩みが見られた模様ですが、前年比の増加は継続できました。訪日プロモーションや、航空路線の拡大、クルーズ船の寄港増加などが後押ししている模様です。

【1-4月の訪日外客数（主要国別）】



(出所) JNTOのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

2020年に倍増の4,000万人に向けての施策に期待

熊本地震の影響は5月の訪日需要にもマイナス影響となりそうですが、九州以外に悪影響はさほど見られない。地震も収束に向かっていることから、6月以降は旅行客の増加ペースは高まるものと期待されます。政府は3月末に、「明日の日本を支える観光ビジョン」を発表しました。観光業をGDP600兆円達成への成長戦略として位置づけ、地方創生の切り札となるとの、

内容です。中期目標として2015年の訪日外国人旅行者約2,000万人を、2020年には2倍の4,000万人に、2030年には3倍の6,000万人に増やす目標を設定しました。具体的にはビザの緩和、民泊制度の導入、赤坂迎賓館の公開など文化財の活用、通訳・ガイド等の資格の緩和、などの対策がとられる見通しで、その効果が大きい注目されます。

ここも チェック!

2016年 4月 13日 「明日の日本を支える観光ビジョン」(日本)
2016年 3月 18日 「外国人旅行者」、過去2番目の高水準(日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。